

平成 27 年 10 月 29 日

報道関係者各位

一般社団法人日本保険薬局協会
会長 中村 勝

「患者のための薬局ビジョン」について

10月23日、厚生労働省から「患者のための薬局ビジョン」が公表されました。地域において保険薬局が担うべき機能をわかりやすくおまとめいただいた関係各位のご尽力に対し、心より敬意を表します。

薬局経営者団体として、ビジョンにお示しいただいた「「門前」から「かかりつけ」へ、そして「地域」へ」という課題を真摯に受け止め、薬局として提供できるサービスを「立地」から「機能」へ、転換と集約が図れるよう協会一丸となって努力してまいります。このために、会員企業に、薬局・薬剤師ビジョンの趣旨を正しく理解するよう情報提供を行い、ビジョンの実現に向かって速やかに取り組めるよう促し、併せて、協会の組織を挙げてこれらの課題の具体的対応策を検討し、会員支援を強化することといたしました。

薬局ビジョンでは健康サポート機能と高度薬学管理機能が求められており、薬剤師の対物業務から対人業務への転換が重要な課題となっております。会員企業には、改めて各社における薬剤師を中心とした職員の能力開発、キャリア形成の重要性を認識してもらい、生涯職業研修プログラムの内容充実にも努めてもらうとともに、協会としても「保険薬局キャリアづくり支援センター」を立ち上げ、各社の努力をバックアップしていくこととしております。

また、協会、関係学会の進める研修プログラムを会員企業が利用し、高度な知識・技術と臨床経験を有する薬剤師の育成が円滑に行えるような環境整備に努めてまいります。

さらに、このビジョンでお示しいただいた ICT 技術の積極的な援用による服薬情報の一元的・継続的把握については、当協会でも 3 年前から推進している電子お薬手帳の普及を今後とも積極的に進め、対応していくこととしております。

以上のような取り組みを通じ、立地に依拠することなく、「かかりつけ薬局」、「かかりつけ薬剤師」の在り方を協会として示し、地域社会と地域住民に貢献できる薬局をめざし、地域医療機関や地方公共団体など公共サービスとの連携を軸にした地域保健サービスの一翼を担い、ビジョンの実現に寄与してまいりたいと考えております。